『できないこと』（マタイの福音書 17 章 14-23 節）2021.3.7.

＜はじめに＞「神仏にすがり祈るのは弱い人のすること」と言う人があります。そうでしょうか。祈るよりも自分でもっと努力すべきだというのでしょうか。努力すれば必ず道は開ける、と言う人がありますが、絶対にそうでしょうか。「できない」という現実は、私たちに様々な問い掛けをもたらします。

Ⅰ　弟子にはできなかった

①お弟子たちのところに(14-16)

一人の人(14)はてんかんで苦しむ息子の父です(15)。彼は息子を連れて来ました。しかしイエスと三弟子は山に出掛け不在でした。彼はそこに居た弟子たちに息子を癒してくださるよう頼みましたが、治すことができず、困り果てたところにイエスたちが戻って来ました。

②弟子なのに

この種の問題は、元来弟子たちには難し過ぎたのでしょうか。彼らはかつて悪霊を制し、病気を癒す権威を主から授けられて派遣され(10:1)、その通りにできました(ルカ 9:1-6)。彼らが一生懸命取り組まなかったからできなかったのでしょうか。そうとも思えません。

③不信仰な曲がった時代(17)

父親がイエスに近寄って訴える言葉を、イエスがその子が癒される様子を、弟子たちはどんな思いで見聞きしていたことでしょう。押し寄せる様々な問題課題を前に、私たちはどうしていますか。この時代に、信仰者の私たちは期待されているでしょうか。

Ⅱ　できないことはない

①連れて来なさい(17-18)

イエスは問題課題を持って来るよう招かれ、主は求めに応えられました。イエスの手に渡すことです。弟子たちは「なぜ私たちは…」(19)と尋ねます。自分の手で解決を図ろうとしてはいないでしょうか。主イエスは「わたしのところに連れて来なさい」と呼び掛けます♪。

②からし種ほどの信仰(19-20)

弟子の問い掛けにイエスは信仰を問われます。「薄い」とはどういうことで、反対語は何でしょうか。からし種は極小、山は極大・不動を指します。しかし種にはいのちがあり、成長すると、根は岩も砕きます。信仰の肝は、イエスが何者で、その方との関係にあります。

③できないことは何もない(20)

私たちにはできないことだらけです。ならば、この約束は眉唾でしょうか。「あなたがたが」ではなく「あなたがたに」と主は言われます。自分にはできなくても「主イエスならばできる」と信頼して、主に持ち行くことが信仰、祈りです。

Ⅲ　イエスにできないこと

①イエスの嘆き(17)

イエスが一緒に居なければ解決できないなら、人となられたイエスには限界があります。これをイエスは我慢されています。しかしいつまでもこれを続けるわけには行きません。問題に呻く声と神の子・救い主への叫びは世界中から時代を越えて止むことはありません。

②避けるわけには行かない(22-23)

からし種ほどの信仰を弟子に分かつために、イエスは山から下られました。同時にそれは不信仰な曲がった時代に、救いの道を打ち立てるためです。主の受難・十字架と復活は神のご計画です。全世界の救い主となるためにイエスは進まなければなりません。

③祈らないなら働けない

イエスは全能の神・救い主、できないことは何もありません。祈るところにイエスは臨在され、祈りに応えられます(18:19-20)。この物語から、祈るとはどうすることだとわかりましたか。祈らないことはどんなことにつながりますか。祈らないならこのイエスも働けません。

＜おわりに＞　できないことは辛く苦しいことです。しかし、この中で私たちは自分を見つめ、神へと心が向かいます。主イエスに祈る人は自分の弱さ・乏しさを知りつつ、イエスが神の子・救い主であり、この方が今、私とともにいると宣言することです。さあ、祈りましょう。